KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Inches Centimetres

ヌ5
4862
7

特
3.5
4862
7

本朝諸士百家記目録

巻之七

常陸國鹿島郡和田太郎勇力の事
石敷塚そ法の事
法の尾の池ゆく鯉猶とらむ事
蛇喰蛇くたちとくんをわくらむ事
奥濃國榜原軍八郎よ海うゆく事
和泉和藤らんさくの事
猛氣八郎の事
下総小下河邊秀方馬飯ゆゑうを討換事
大伴大夫殺の事

前集

伊勢三

毛鬣奥毒と絆とをあくつかの服あ
そのたくつ

河野無智宇田右馬利と責くゝ神木と称す
河内国玉祖大明神神宮寺奥宮のゝ
本尊孫宇宇重成未ふかう天石馬つゝ

石別於川橋右馬愚義より勇を拾事
一郡中 弥弘のくゝ
田子浦内国外市川雲番城系のゝ
真女丈夫より強りくゝ

本朝諸士百家記巻之七　前集

物部系和田右馬助のゝ

沼の尾ハ池の玉ゝ神代くゝ
よくゝ国常陸国の名ゝ
名代所ハ嫌ゝ物部系和田右馬助
八百石を領くるの侍古今二双の大力をはれつさ
美相ゝ背ゝ
生来ハ肩のごとく肩骨上ゝ
精くゝ横ゝ
偏鬼のごとく海美死のはゝ
代の源義と人倫のよくゝ
源義と停世奉てゝ

つきますの地こう一つ力をつくして家に入くらで一人の孫
とわすれわりきて紙をとれひあらうとて家りうとと
能義れどり越後の中に二三迄あるし的方ちふ
ゆもこだつもこよれたびひめとて姫とるの家れしひま
しさ縁と育むもぶ家れ桃の義者さ也まらの
色とうのたうんぐむふより引たて義りづとあつく
はよとる色を縄のいろりゆうとと家一三あ志むれどさう
あいのきてれたてるりのよ家きるもしとと物てあ
ゆきしい騒るよ敵をうつぐどくさうとまちうさ
つくちれ思んぜこのきうひあく禁法ようそ義
よとれ和田を義きて家格たづるをゆくつきるてが
ううき命をのれうれるくれの法ようりう。

その法れ頂ん新里とのふてあよ村中の年貢米を入
西去義わり史の用心れてあんをとるまを六十ま
ここの山よ色よ元と赤遠文記人まりくれ米とうのれと
去和のきうれとの先義よさうりけく結婚まう小屋
とうらん童きて人後よ入三人つて番とれとあぬぐらめの
相い約れつらも面りしよ家者ぐりもるて
敵宝ぐりよ三人先よ番和とはくと鳥もつざあび
通りぬ村中仕くまのやとれさわひさて死うの
名れた約ん新ぶれ義れのとの義りくれ一通
戸をはくさうのぐきうれんさぐあうみを
わうびといれのくく義とりくみさぐりみもわう
ぐぐれとりあ家ぐとひくさうよ

人びとらもおりうれ自ら脱てくしてはとやり迫
海をうえのあたいで五郎のうやわんれのまてうが祈ろ
しとこうよんまうひて奥の海部の方ゆうのよりく海く
げまうりく番をこそせあたと人鬼神ゆとわまじ。服
めでよもさうぐうこうだ中うよりたんぐくこんよあさうと自
法をあくく人この海法ゆとのつうよりケ石の他ほう誘骨
車の白雲九しゆうぐこの蔵八年食のこそ九ケ蔵山
揚の一八ゆんどあさんをよぐうう祈の方づよえて毎ゆ
農具とおうさびくゆぐうゆ海を業筋でくうけ方足
をあくちしして先とわくそひうくこ醤みうくゆ
人の右九ゆくよ拾うう老奥も拾かうぐんゆと似ど
うくゆも海ひうく年海ひて村中うびあひ

そいうゆうゆたゆやさうも濃ぐゆくゆ石とゆのんれ
うゆの九ぐよ米河とまうぐ和海ま。ぐうくう
ゆうんとうくゆのゆくおうくそもいうふとうさうび村中
れ老ゆゆ男女打さゆてうう米ちくゆ十人り
こゆ八二十人。雑くく行くもくそ疫病のうゆう
海くこ猛とう供い民部のとうゆゆうう祈のゆ打ゆ
ひうゆうよう九ゆ祈と建うられたうゆうう村神つくうの
うゆゆうくうくゆのくうりゆ像ゆうゆんゆひ
久海ゆう九義よううりゆうゆうゆ蔵ゆうよりゆうな
実縄とまうゆ海で番小屋ようゆうゆて去弱もゆや
うりう年貢の川米ゆんどと焼うくゆうくう村
中れうまゆんゆうまゆうれうゆゆを下ゆ六十迫

の男うまれ出生中藏らだをうしろ形べーだとへいかのうまー
しーうみとーもとーもとー同勢のようめーまーでーこーでーこーぐーどう
ぐーかーみーとーさーうーどーれーわーかーの和田左衛門二ツ刀に及をあ
ーけーぐーしーうーん三ようーとーうーくーとーろ源氏よりー及ーくーれーのーまーこーど
ら伯ゆーへーうーくーよーイ村中を踏ーぐーそーまーうーちーくーよーり色
しーとーとーがめられーどーたー戦あーりーこーうーのーん和ーまーこ酒れーのーこ
伯ーまーーを所ーよーりーくーうーどーまーりー結縄をーりーれーどー和田ーう
おーこーあーつーこ伯ーでーもーわーまーこ系ーげ今青の番所ーうーめ
めーしーよ勢ーつーく勧ーさーげ一ーんーまー系ーうーあーうーれーを
変化めーをおーめーかーしーてー敷ーこーどーしーうーあーぐーさーあーん今
青ーの猟ーもーこーうーどーしーを実行ーう潮ーーーうーつーーー

あとをいとゞまもうくそでづちたゝくうせてう
ちうりとうり和田左衛門ら
くさとせびあすびくゆみをもつめ主用の奴ふる
まのうつゆびもびさうゆとて夫と打ぶ脇とまびて
ふとをまびれうー二八ぢうの間ちうさ深小袖よ
白さんどを袴とちゆくしぢうしうを燭とう
げ家をのやさしく門より入夫をびうこよをを
和田左衛門ぐそぐに若ふの風情あてゆりめうを
海自ちびもとう法寿ようらうにまとうら
うものをというびれ弟ふくこを若ふうろれ若左
をひろういうれをやつこて和をとのこをめをこの法
うんでおちろさんものをとれもしーりどまりく

いくへか海もあつまりめとれば見えいづるまこの青にれ入る
海ぞたゆ寄の頼内まてかなんあまこ戸さびしかりけり
みとせ世よ年を今月育み番へつまてくへ年見えのれ入
あれど数とれれ見ぞとりぬ一数とうりあり
さめと寝ぬ寝ぬ夜とのぐりさぐりて寝れ
紙帯れよりつくてしてうに世藤と枕とうるぐさと
してぞ物てて感激数も物ぐれあれぐさうこの
化生ぬぐくてて名うん海んとあまどくとたあ
れあのあのたの海まうあれどたやくくも和田
くく今い紙とやれひうん和田右馬ぐ助て詩にから
さ咎つくさねどこれあめくくとさうとやりんのど
とくふりまあり大あり寄れのくうれてぐけてのけと

おつくれどうつとりりよ月くえめ物くあまてくうく
月れどうりりうりつう見のうちの数とうぬれ
数もぐさりう糧れ化うあくぞあくう海あうれど
新里の百姓れ部もくくとくせくうれ月のとん
弾あくくうせ系ふとうれんぐ伝のうちわんん易うれくあう
あぐ仕りぐあくくわりつまぐくうくうの紙わり
と波百糧の寄て百姓ふよとうせくゆりぬぐう数よ
いと紀海米番人あれつぐもありうくも海右ろ
国もこあのもくあうあうりてれのふとぐくう鬼神乃
くくうあてあくくうぐば

勢法宗和田右馬蛇嗜蛇くたあとあ名寄の
る時和田右馬川海川海人のうり紙とそ。

夕飯後より富士を望み見る八月の十日の小田の苅入も
過まへとり捨てくるよ晴よりこまりく豊年の姿
とりんばくこの山は義源より河内の奉せりしかく
なるよわくこうしまさ郡玉松村より三ヶ
んといくも勇ものとりとなるつ
く物ごとにはよりぬまれ尾の池みよりすれ
うこくるまれ小田まで横うにもこ文おまりも
まべさとおふ我来を捨てうり猫鶴の玉民の仕
まざ歌よ入るを清水のさみてみくさもみくし
小田の方へくてうり百姓めしたうに死をと見
まべさあをとむふへくり鶴くりるた小田の百い
来のかとりんへうりたれのまとくくよとりくよとりく

こくさ香とうり玉民和田右衛門よりてひつくこのふ華
みのこのとこ見ふくこ文うくくうくかれ
ご地と絵くうくうくこ鬼一位と蒲ふ海をどびちく
く鳴ごうをむふさ和れたりくこ金剛力をわ
ちくさうもくくのとぞまみつうまくうたの力高り
玉あつまくもせつあくやれひとりうん二うるとう
くくうう伊よりくまこりごくも和右衛門ゆうくせべ
一者よくうあまとりわせあとかのみくくひをわくくご
玉あよ玉ひも一ごうくくいよくせうおうりうん地
よ姫くうのかくよりかるあくくあうひつとき
りせて和よりれ文うこの岩角よ打あてられ
て和田もうくうとまとれひぬざまと元古今玉数の

大力強弓のいろうめ
ゆみをてゆれのもとこめ
でゆらぐうれのもとこ
かぶのものもとこ二こ
こ今は引くれりはこ
こうろんりの池ようと
こうくあ屋りのもとて
命とうぶうまあつけく
あよ引くしび和田ちつ
しあとこあもとく命と
こあつくもこぶうなこ
あれてうこよ酒和田ち
うもこそくんこのこ

さんとうしたまのういかりくつうくまあたけのるをみめくるを
さくりのんをもどいつのうのうかいぬけくあるをんくやがうり
みくかいあいこれをまこうにたいとうくでこの恨をうを
よかうと恰つさうう(とうろうて恰ちぐれどるぐうろうく
たまのるべさうこうくとうまこうに梅い仕をあいめと
鳥とつぐさ潮のとうひりあたらもこぐいるとこれく
とさいつくぬさ醤油みろあ(里人のあろうをまつさ家
ちうくのうくとうりうさう也藤ちとかまこを也ろれどおを
いろの百姓二三百人を也まうこを中にくをちくやうこの二
百人余も撰ひ(とぐ揚のさいかるひよろ也新づる
を也二郎よりもけくのいつぐ也沙ろとぐいうの兄弟舞をか
ちうの和びてうし嬉うまのれ国ようけうれどれ宮揚のよう

古今の勇者れ目めをとぐさ武士として二百石の加増
みくくみ石りよりの(下さうる)れ横姫のわまり外ちかを
泥ちかるとあいくあらるる邪恰蛇くを也うとうりさ
もうれ

横原軍八蛇よ海うて事

華泥ぐ外治よ名をとりうは関羽漫画う強乱よ
ようもうりいつの江みうりみうを原国加納のれ飯ろりよ横
原軍八といふ武士ある新兵衛の入るく客を也せいと
もうれ海みくく勇ありしいぞ雑うとおくせいくのそ
のりよと落鉄砲撃つ撃くを也のうりよろの新二三十も沙
ぐをうさ新しくくうさぐ一瓶とうくゆうぬ人を酔とけよ
しうの墓れ出海くうれ酒のるうくぐけるしをめく一

蠱酒をもつてせよと真しめ儀のあくいひろいの蛇の逆
れに海蛇をもつたれ酒の名をあくわ〳〵蛇のまれれこう
名をのてあるべしとつぐ志ひくくとてこれ蛇の名を義丁
人百姓ゆくゑをつまぶ蛇のれこうといふよとも病〳〵言や
つをこうんそれのくれりこうれ神蛇いれ毒をよりこうつ
れ着るく今一つこうんと酔ようおうぶ軍八ぐいひこう
い蛇のれこうを酒の蛇のるわんかこくのこうひあい
を承むこうりこてこうぶやこうあとそやて焼多ゆくく
食し敷蛇より及め蛇よいよ入くく蛇蛇のを折こてこそ
ゆし蛇者のぼつて蛇よりぶまとも三海りめ軍八も
門れこうしく蛇酒いよこうこ蛇よりを蛇とこる
いぶこうこて麦結め敷ゆとれぶ〳〵こうわるこう魚

ぶまりたぐいまこれめくいと ひひくれ女房と始ようく
の男女行ようゆやとれこうわひ業よ騒ようこうぐこ
ゆりと軍八酒とまとこて下ようこうこく今日の
蛇者こうぶくく蛇よりあるこよ一云いふ蛇こうこ細を
とこて人と四こてよぶ集め蛇行ようあやとここひ
ありこせくく軍八酒いこくく央ものれ蛇行ようあやん酒
ゆしれ使ようぶこれ病れのこうこく酒ものいこれれこう
ゆやとこひこれて軍八市こ別のこ細りよりぶ蛇
れ承こ酒とこんげせんこあんこうぐれここひこぐめ
らもこれこう蛇のこうこう紙こよ こひひこう形ゆれい
と蛇者ことめこぐくんせこるこぶこうこうれまのぶ今
文ここうんこよ処こう蛇軍八ぐこよいここことまここそ魚と

こゝあくうりさまた蛇と背よりけく
ちくの狂とかあげん雖ゆくも口と入ゝ〇こうくた
なりしとこのこかれだいやくあれ下人のうちのくひで
たれのうのぐしさまぞめうこあけうあそいとそろ
しあんといひく助名んとのあ軍八今ハそ相はし
沈黙くよ息ハまりてせつあしてと蛇と背よりつけま
うまとてう蛇とこしくうう孫宮そうへ口とさし入
むりふさあよくう〇これでどんくうよ祈まくうう去と
ていあそうしさ二名とういこれのこうれあよそだ
あう蛇よあつく湯とうしく被埋でうう蛇と金と
名れで皮骨去くあくさうやうあそうどくうのう
よこと〇とこうんと跪よ祈ト弥らで着のして

[illegible]

[illegible]

[illegible]

毒と解し合業を用ひ、的後日いろはにあ秀右ろ
とやこ合解しびものごろ　ーは今日いろはにあ秀右ろ
ろこのいれ解れるつく業れ用ひれ連中ゆて的後日ふまこ
くれらるさびしとそて秀右ろい一産へ接抜とまこ毒
驚同乃ゆく私宅へうりめ、を日ようる異毒と解と業
を用く嘗こ日さうく射乃治よつひのとくく治へ
秀右ろ方ようる先の方まで今日ら仕んと使まと
うるもこのを毒先れ中つ・・文ものの連中ゆくゆこ
射乃るにせぶのらしよんゆとく一矢もあやまて百矢
射抜こ治一産も真りの赤じて班めこ先ものそれ
異云射と乃載とそもるこりの赤乃ゆうりの赤を
ひりのくこ赤こくこ赤こ赤ものは紙編編者の中を紙

なれ下紙編作金のれ嘱うのうを云こゆく知れ六百
石とありれ赤ろ〳〵を侍りの下河名て秀右ろ
鄭のゆゆくれ嘱と新治へのゆ乃ものとい治
よう方ーよもろ〳〵く接乃加右坂り醤赤右の地とまび流
おれれ嘱を三ようる抱らるこをとて大坂れ義産安のれ
を右仕へ業へゆ吟作へろひお接産こよう作付し治
ういつ〇りの七歩のうとこ小わこうるありこよれの上ま
大仏れ鉄昔古矢射りよ毒八千余へゆとこの嘱ゆい
ざれ義産安ゆく百矢射こ毒て見れ・・こ・・ゆくれ
抜べしこのお接元沢も中国方のれ治ろ右見抜れ編よ
決業ゆ入産へこの使わゆてこゆこうろひ抜安百れ
ありれ一産いを赤の義産安流一あ安れれ先の嘱治ろ

石よ茂の奴人方い勿論お入れ下人彼も数十人の男れ
そもそも面白きさうなれこそ多ちうつもりの手習ひ七ぶのう
指おづらよりうり多づく海ひして毛と刺よ脱ぐうもく多
つくまつりそのうしどころうみ行者うくらうくらうち
よおうく挑ひ多べきとの人べべ多い乱とりづくよ
はけく赤面と一座の不真正の雑巻弟ぽとつを
おまうちこ秀ちうちはは面白ぬ者もうこと仕合義のあど
しめさんもうづつよりよ祝ひもこ指うの今日よかぐさ
ひまぬいう夫神みも拾らもつう義運よつきうち
仕合四脇ってたう和他ひ多ひ者くめんけ
もだ何とせんどろれもあく一座ってう言てあひうつみ
を及ばたづまうつうち石うち海ふよ日活代の義

五十把の稲を持ちて行きて送りめ去りぬ。
ゆくゆく武士一人出でて言はく、「汝、何ぞ
て、好物と偽りて、毒を与へ、病のいたはりを
こと勿れ。毒を与へ殺すべし。」と言ひ、
ぞや、法師の侍ひ者、何ぞ石の弟、僧の法師、人の目の連
流一人も殺しぬ。捕へて縛りて、殺すべし。」
ひ、まことに食ひ、二人、目を閉ぢて、
とくに、ものを言はず、ものを言はず、
法師、毒を与へ殺すと、一人の法師、
ぬ。「汝、何ぞ、毒を与へ殺すと言ふ。」
毒を盛りて、武士、「汝、何ぞ、毒を盛りて
ぬ。」と言ひ、武士、「汝、何ぞ、毒を盛りて
法の武士と捕へ、ゆくゆくの人、
勅を受けて、武百石の水稲を
駆りて、ひとりけりと言ふ。
上、業を思ひて、奥毒を解き、武士一人、
迷ひ、用ひて、天皇、聞きて、
れり。めでたしとして、五十人、
駆りて、法師、
ゆゆしく、今、
くぶ。

恵和尚、国大安寺理を貴て神宝と為る

河内国の安宿郡の郡司、
みて、我が宝、安大神の神社
法の武士と捕へ、ゆくゆくの人、
勅を受けて、武百石の水稲を
駆りて、ひとりけりと言ふ。
上、業を思ひて、奥毒を解き、武士一人、
迷ひ、用ひて、天皇、聞きて、
れり。めでたしとして、五十人、
駆りて、法師、
ゆゆしく、今、
くぶ。

恵和尚、国大安寺理を貴て神宝と為る

河内国の安宿郡の郡司、
みて、我が宝、安大神の神社

山花光寺竹阿と号す　とかくるるよりの歌　をくれハ
しまの名所　竹取物語　のこの行幸　不老　袖長寿数多
ことあり　第一大般若　六百巻　なを仏者大明神の
れ　中の紅い弘法大師　未い　玄旨の門　[illegible]
花光寺　[illegible]　新[illegible]　禁制　梶原源太
制札物語　義秀の行跡　[illegible]
まことあれども　[illegible]
四方　[illegible]
和歌の仕様　[illegible]
醍醐　[illegible]
[illegible]
[illegible]

つ[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

万ものぐるひ沈まよ産業元の事ぶつと養ふ後乃
ぞくこれをつくりたるものの事ぶつ法ものしまづくへと
かの物真じくれどうの長さ三ばかりそうぶもつり
ぞうりうさくなんどと先祖よりあまろ大木
ぬらんのごとく面白の仲よし木れ拾ひ後くそびこうの山
ゆへ年ゝ余程の庭の赤もまりくどと祖ん家まりそれか
ひとりの集ぞれあくうをさかる先年親りのそれを
のく代よ面れ河ぶん枝くうくくうよんあくく性木の物よりあり
ひとも面ぶだのうそて枝とをくあひぶたのまく祖
だりもてはぐつかとふひつさとぶ後ぶ面めを側くに
助ぶりぬぞもこのこりぶに一と在又ぶりうくくのゆ三産元
ぶ木のりに集ぶのんぶわそひ拾ぶひあやまりて木

の枝とれりこぞりよいぐろうさまんどーくろうとて村中の
みだよとうり疫病とやむらの無くば若い十人よりて
八人いとうろうさまこれぞもとより氏神の田の神りゆく
おしーまーくがとそどうりよ一ぶとらーしたるまるーせ
うとうろうれで宮田の田の神の乃
地あくれいとうろう他い又地よりとまりひとりの神のて
れりーくがうもいとうもあるべし地い先祖相撲を行へ名詩
ぞーう重民う頭地とまりとりまくまでい八代神い家地よ
とうとあり神へとうとうの田の神のりくとありうとうひ絵
まびまりやけい神神へのの地よりとうあげーう地りのとと
おやまーそのありよりまざとりあり条いとれりーうとも仏
神い無地とりくうとうとれりとうとうでまとうり

拍とりりろうべーし枝とうれでとていどうーうりりのわー
んりで系ぐ枝とおくいいとうとうとまくとまく
とうどうとおーう一枝よりあるくくとりりの斧とりーにうー
まくとりのりりり

わしぐろうりをはたりのくふれ魂かたこうでしこそのい
わしまじとうとうて無しごさ

鈴川橋をれ第四愚義ひ月を抜き月のう

石月人国は和殺れ川城うまの国の浦大名のあしこの武士ふ
代くのあ武者ゆく武の石とかさもあ間中国の浦四
通し助別知よ宝百石かさも前川玄番とい浦武士と
和仮ゆく勢ゆくもてう玄番新の不三みくれ城
をかさも浦人の月ふ国ふの中といひ伊
のわやまりもわしぐるもびつぐ勢屋こを兄太宰
やうくいお仮の不三ねせめといひくわしくあざう
れあやまり玄番同あれの月相法ありとそ中国こ分に
ふいふ国中峯てふ月ありとそ家兄の

ふこん屋利姫のでしれ武者のさでふれ沈せわくお
ありうれとんく感じあてりくり中国こ分いまで
三十ふとくゆ霊書女ふふれがふ武ふ
さ石寺私宅よりり女ふよわひくうとんびふ仮のふ相法
よ付くう治人とめくうもこ異服ふと教よ京都へ仕やん世
神い姫三文拾むもふ沈んのてりあれどこ宮へ部ふで
善勇ふりくう善寺しじんとてうびゆ高光姫
をのあひんい公ト小姫まれどいちすて果ひさもびさ
しぐのふいあんの嫁文ぐうとんとんせくこふ国け法
ふいそうさよまりせ沈で通系の姫ふ和まされどふの
もあんふもりんんの姫ゆうびとうら洞ふて法

れいぢ女房おうくるのくるまでまちくたびれ
て吟ものうかたとへいう姫ゆるの
んぢいうゆもゆ姫ごとそ扶ふどぬんさをてまつてまつてせい
ちんでれんゆとくなんどと月ごとけのえびし武士の浪人
いてたとやんのうつとのうまいくれんふりけのかたりわしべうい
さびえ祝のうまいくれんふりけのかたりわしべうい
ゆしてやいんわひうゆうくいふぬのんとしふ島とぢうか
しのふ家とらいぐしくれつとといとあ蓋ぢりうりてけさ
のごとくもの祝くこうれわ女房の浦ん角うまぢんと
ちりそまま角へのとりぶまゆ姫ひとうていとぐれえり
こうよあうえのりしうとびこれてくらくのいつとあ凡後
ゆれりむくよ伝とそ月とさあくふぬごひとびせざり

そうとこをのれうをせどの夫婦のうたれ侍しいうのうこや
はてんとをいてさうむりよおわりくらいのこはうとうや雑文
遠い親もあり しらんまとそもわらづこそだもたれを
人の中のりとのうれあるりとそもいまこやのんはわれん
見えく我侍とはありめべされりべらくたりうめこそどり
男のこそのやとうてしたこ年月のいくわりてうれつこ
れ接をくつい御こと人の四侍しと兵服ふと報信宅しうう
こ月うをとをこれうくを侍こて二人めりつこをあるる
もたいうしうう中るのこうしう男をあし良のの墨とい
たこさ夕りのれそくいうのく兼とうもづこまをのを
こて侍ありここれ侍もめこうりめとこいこをを
人こうりう男とこそるまうくをれ新をく七とを

はるのうこの夫の四ものもやはもとを八とをのこをとむく
二月ちう侍ようの四函あ日大学のく毋以の邪病乱ばら
もしmおとりく学の生のくあ下屋学へ引也二向病
学のの方侍とのこわんりんれりりくうれりりくうた
学よりあこんれりりくわんあれで四函毋海系の
りりもも者中ふとわりをお侍まちくりりとへ
どもとは今れわりこたる大学よ病学とりけ海系の
孫ひもこうこもまりて到つこうこいの四函かう
こ深あやまりわりくれれたた学のく鼠かのりりて也
るのんはとれそまこくの源へとこそりんゆもこうくは
方へいうりらんとこもお侍方川玄番う海系あと解くて
四函こ毋りりいの孫ひかゆこもれよくあくゆんと一函中の

お[illegible]おかつく戸よりの[illegible]
[illegible]のうく七年[illegible]
[illegible]
[illegible]

仙ろく歌までいろ〳〵ものひろうぞそれぞれ
ゑと世ゝ世七と世ゝろうゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵